



明 利 5
2.246



一まゆの 初秋

初秋

今秋よあら編笠をさくく一まゆ

初秋の風はよりさやりのまよ

もさあの大あまやの風

七夕

浮草れすわれあまや女七夕

早合やうに被地の風す

明治四十一年五月十四日
富山房紀念 氏寄贈



幽山

三翁

帆音

才磨

其角

何れも妹をせん侍女席 嵐雪

桐

昔のち桐のまふりしはくお 山川

夢

朝息よつとていお露のつよまうれ 来山

朝のよ二夜泣と夜の別か 秀和

朝顔や片底なるを聞かぬ人 百里

朝のるや給はつるす方にさるれ 破笠

禅者く夢よるれ恥をけ 杜格
朝顔や報り文ももころら色 月下

魂糸

寺ま棚をさるも洞もあつてか 嵐雪

魂まうり味なふふのこのまか 湖水

魂柳を面白くおまのひか 百里

多れ十人けさうれおせまのりす

母のよふふ路のいふをさるに

このうきをくちかよよとせり
魂まろくちかよ入おつひあす
施縁鬼柳ふれりもきや
孟蘭盆やききをつれく崔賣
冰花
調柳
一映甲府
渭橋

月 附物迄

水麩く月よとくき海世
江の月やあき清りの柳か
名月や秋人よ好みのなよう
沾徳
鋤立
嵐雪

二所よ月人とのきり
舷をまゆし月乃落し
笈笠やとくに目もき物色
峯白
懐心
秀風

菊花 九唱

其一 九日 嵐雪

菊もまろくつあつぎふ九日
其二 菊もまろくつあつぎふ九日
かくれ家やよめ菜乃甲に更菜

其三 百菊を掛けた

菊^キ白菊^{ハクキク}一^{ヒト}まの^ノ名^ナい^ハびくも^カ

其四 八折の菊

白菊の^{ハクキク}穂^ホ倉^{クラ}や^ヤす^スま^マん^ン之^ノ庭^ニ合^ア

其五

高れけの^{タカレケ}の^ノま^マの^ノや^ヤの^ノま^マの^ノす^スま^マん^ン

之^ノ庭^ニの^ノあ^アる^ル菊^{キク}を^ヲ尺^{シツ}乃^ノ ち^チり^リゆ^ユん^ンれ

其六 琴

琴^{キン}の^ノ語^{コト}る^ル菊^{キク}い^ハう^ウれ^レつく^クは^ハ誰^{タレ}か

其七 茶

菊^{キク}野^ノを^ヲ又^{マタ}暴^{ヒラ}よ^ヨち^チけ^ケし^シん^ンや^ヤ

其八 書

書^{カキ}を^ヲ抽^{ヒキ}ち^チ書^{カキ}子^コの^ノ菊^{キク}の^ノ也^{ナリ}

其九 昼

菊^{キク}さ^サけ^ケの^ノ蝶^{テフ}も^モく^ク遊^ユぶ^ブの^ノ血^{ケツ}

鹿

初^{ハジメ}り^リれ^レく^クら^ラぬ^ヌま^マの^ノま^マの^ノ不^フ障^{シャウ}

田家

麻もやゝ急麻進つ菊房

桐雨

巳巳九月十三夜游园中十三唱

其一

素堂

もや申越の月ふもあつすは又そ
きり乃さらめれくをいひて
その窓に菊さおんやしてあふの月
乃うらうしたぬぬ

書意はくつおの月を二お茶

其二 寄菊

多れ一もや二おの月よ菊らん

其三 寄茶

江も乃くく急茶に月の湯お茶

其四

有すもぬらんや月乃十三夜

其五 寄蒼麥

月よきるきとくはとぬるふ文り
尺さしりふろくうなうたふり

月九分あきけきるきとくは

其六

畠中霜子待瓜あり試り

筆とをきとく

冬瓜よむきとくく月よ

同隠相永とく

むくの木のむく鳥なり月よ我

其八 寄薄

種秋よハヤとぬ月のたはれ

其九 寄蘿

なすも月よ這かれ種とくのた

相よありあつし

其十

一水一月千水千月とよ子古た
すめりくくあまいさるる月を同
神にすまにさるる衣月幾つ

其十一 答

月一ツ御らり結らおれりるあり

其十二 寄芭蕉翁

さうれさしんしれ彼庵は月をさ
あしきくここの人ありつり

傍ありあまの月
よあ帰てあまの月をさ
らあまの月をさ
又月のあまの月をさ
月をさあまの月をさ
乃あまの月をさ
あまの月をさ
あまの月をさ

園あり得

くわをくつきくふ新海月ある

礎

衣着や粘丁の朽るの鳥麻 菊鈴

砧亦人も裸くくもれあり 鋤立

芦の屋れ竹ゆわくまあんか 立志

槌も繋くく 山川

もろくさもろくさ乃山あり 氷花

我子に拍子志くするあわくか 巴風

鼓や砧やくまくあわんの音 仙化

野分

小く女やおまふにむくかく草 りの

湯けあやのおを運びのこまか 東眺

白くまきあわちめく草れ暴風か 立志

いっくやあまの海のおまき 一笑

加賀 一笑

紅葉 附誌

小田川にけしけなや 下りて 秀和

水底乃紅葉入る 春のうきか 八木

片枝ハ赤カこあ 乃もさちか 百花

滋養乃瑞よ

おもはふ紅葉ハなげの二月栂 在木

霧の手にやそよまぬる 山か 嵐惠

序

とつこく 粟よも似たる 藤分 大坂 予の

葉のまをさく けんる 藤分 大坂 伴自

伊勢の國に 藤分 けり 伊豆の

地 藤分 藤分 藤分 藤分

橋のさるる 藤分 藤分 藤分

橋のうにせ 藤分 藤分 藤分

これして 藤分 藤分 藤分

藤分 藤分 藤分

角もやりせの神釣るる為 其角

わさしーくしせのふ出

くほとつれ二見へわねゆくわす 芭蕉

出

秋の部よ今くはるや 裸山 琴凡

つゆきりや 芦火ようく 灰の中 舟竹

えんをりよ 何を業よ せせく 山川

おのぬ 蝶 水きんく 水花

継ーさきしつちにうららね 紅

穉国よあくあきりねとかな 風子

穉すりすの陣あさむさうね

百三とうら

百年よ一をきりぬりねとかな 橋心

日くーれあさうなむされ親の里 少年 浜五郎

一かうらぬいさーく 窓心つきく

親里れうゆゆーく 窓心つきく

夕照

蜻蛉トシホウ乃 磗を 抱ゆる 西日 ぬ 沾荷

潮乃 かつぬ 芦乃 穂乃 ぬ 芭蕉

雲其 外の 澄を 濁つる 杉乃 ぬ 露沾

水乃 乃 乃 乃 ぬ 沾荷

入月 乃 乃 乃 ぬ 芭蕉

紫の 笈乃 乃 ぬ 露沾

心寺 乃 乃 ぬ 沾荷

花と 乃 乃 ぬ 芭蕉

夕 乃 乃 ぬ 露沾

白き 胡蝶 乃 ぬ 沾荷

結乃 乃 ぬ 芭蕉

乱乃 乃 ぬ 露沾

洞乃 乃 ぬ 沾荷

何を 焼乃 乃 ぬ 芭蕉

棒の 月 一乃 ぬ 露沾

流つと流し 二言の教りけ
沾荷
月つくと乃こ 作や鳴あそん
芭蕉
四下 崔ふれも牙うし 先
嵐雪

稲妻

古すれ稲妻とやまの 寝くれ
立吟
つたりすを稲よ 繁り此間あが
鋤立
稲妻れ 母よ 多ある 狐くれ
伴叔

桐模

よまじり 傾城のみよまふれり
氷花
見ゆを 携ふと 和ふすまじり
花蝶
投らふそ 禮し 這入すまふ
立吟

病後

丁やふき 心のやめ 秋乃とれ
尚白

踊 祇園

舞子文く 踊鳥乃 春白
千之
稲妻よ 踊ろぬ 泣子か
月下

安山子

かきくき 安馬ささく 徑ヨシキくれ

詞柳

あしきくきりよてささくかきか

系水

んささきはあふあふあふかきか

呂洞

このしきいあけの花のかしき

鋤立

秋の巻

辭ささく 漸くや秋の今ささく

京 千春

立ささくささくろきや 秋のくれ

嵐雪

秋のくれ 女房れほささく人あ

氷花

ささく 飛人ささく 秋のあはれ

鋤立

ささく乃 獨あささく 秋乃くれ

嵐尾

始乃くれささく 柳ささく

月下

かきくき 菊のささくささく 集のささく

かきくき 立ささくささく

始れくれ 井ささく 蛙のかきをえ

舟竹

とらささく お産神ささく くれささく 人丸の

柿の葉のさき乃葉のかきくろれ
けものあまうりやと笈の奥く

極乃かきくろれ乃まぬを 嵐雪

蕎麥 讀甲陽軍鑑

あゝろぐ乃志なのをまよふか 京 去來

茴香

実のたはるまの朝露やふゆの 桐

岡

さやゆを何きよの御大ら 卜宅

あいのまゝ人の回を山の奥 水山

和あふわたりに酔ぬ山路を 卧草

らあよ静あまゆに 湖水

いさよに糧をよまらん秋の房 湖水

里れよと島たき 居るあわ 同上

夢まきくく岡たもろ ぬるあ 東雲

草履とわさくろくゆくゆく
茶をたぎやく時多あましたゆひん
嵐雪

京へよかゆ

町多ふりまにたきい何くろ
茶のよのい白干宮民ふくけを
山川

江口あ

かろく子れあくらにかたぬ町多
京子之

火

燈のなやあよかげあるい海面
月下

いふれく我性さるる火燈か
字先

甲のやこくれ是乃各の電り
堀門

埋火やこく車ふる嵐
百里

小ぬまといふあよめされあり炭徳
和殿

足袋

只くはあるとく病多根陽り女房
嵐雪

草足袋やあくる母行る行る
嵐雪

本枯

こか〜に吹倒され 庭路に

疎木

一丁に風や世のこころは

伊勢 一省

こころに腹立鶏乃いり

桐雨

本枯よ世は白く あり

土餅

日あふもこころよふらふ 枯柳

湖風

うたふてもまふも冬は山は

京 原水

十月雁

こか〜のこころとひらく 庭の

百里

十月乃風りりくよきく

言籠

落葉

新川の水よ落葉はこころ

三石

松よ落葉はつらぬく山は

東石

落葉は朽葉は拾りて

北鯢

炭屑はかきとる

其角

落葉は風とすくぬ

今水

落葉をくく色くは木の竹くれ
狼乃吠か〜たるまのや月
交離馬す〜かねのく衣か
塚一の枯残りしり形中〜か
多〜と〜や〜免ぬ初めの冬も立
山川
和殿

帰花

物すもやあ〜おり〜らぬか〜花
おんそ〜らぬらよ〜く〜ぬ
舟舟
鬼貫

や〜らぬれコト〜よ〜し〜か〜花
涼草の横は白〜り〜花
秀和

雪

初雪や〜や〜と〜替れあ〜
門乃雪印〜〜ふ〜り〜か
常しく〜ぬ板と〜ぬの雪
ち〜く〜たに〜も〜れ〜る〜
と〜も〜さ〜ら〜ら〜る〜る〜る

山川
嵐雪
調柳
雪
孤屋

白霜の溝乃 罫のも 冷きけり 月下

ほろこきと ちたきまれ ぬあまけり 湖水

一嵐後の 舌をせ 糸の 北風

初雪の 白きたに ころぬ 田舎か 峡水

初雪も 別 小あまこい ながり 止行

霜 踏 至 堅 氷

初雪も 一 原の 角も 多かれ 紅雪

色とに 多き 糸有 きれ 柳子 宇門

病中

初雪れ 半 節 けり せ ぬの 糸 竹井

霰

あまこき ながし 志よ ちか けり 茶臼

霜

霜の ちや 蟻の ちきく 古 杖 風子

日乃 新や 結く ちあ 田の 壱 籾 遠曙

う 毎の ちあ ち子 ち 娘 乃 江 尻の

水鳥のあゆみ 鏡うき 山田のれ 湖風
きりぎりすや 天宮のふ 死のうら 水鏡 山川
鶯のまゝ 西階なる 小池の 尚白
麦を 舟人よ けし 糸うら 秀泉

水月

晴るる 如常の鳥 一冬の月 樞雲
つゆもれ 那に 捨らる 冬の月 露足

二雁 附進草

歌よ くのもの うき 夢の 舟の 舟子 子英
秋 一さ 夢の うら ぬれ 對馬 舩 其角
眞實を 遊 ぬ 庭の や まゝ と 暖 桐雨
追鳥 一ぬ 迹の 入り ぬ 一峰

夜興

ほ ぬる ぬる 夜の ぬれ ぬれ 氷花
葱

ひ ぬる ぬる 一字 ぬれ 題の 志 進 草 百花

臘八

猪ハ 飢牛ハ 胡麻 喰 五 六 七 八 九 十

紅雪

あの日の中をまわす

君もあや我もいろう 萱花 楠

嵐雪

煤掃

武 武 武 武 武 武 武 武 武 武

東頃

すくすく あらう ねんを 家例 水

調柳

す竹の世を 戸をぬ 所 あり

菊峯

煤をくくく 何やうか 家の内 月下

鈴扣

身を捨よ下 終えく 雨の御 氷花

御をくく 君子 其 園を 遠き げよ 梅

節季作

せよろ 終や ます 天を ち 湯 墓 山 山

衣配

衣をくく 河所 へ ちを わる ち あり 同

歲暮

年乃急平らけり是依る世月下
米虫乃石臼先くや世柳下
古曆ほくまへる世嵐雪

世話

ラリ、十七日 神海山をめぐりて

徳

とゞくにそある衣文のあらし 芭蕉

龍樹菩薩乃 禪院伽王子對
て貪欲を志り 俗よりとくと
有瘡人 近燼煙始 雖悦後 增苦
乃文のこゑを

歌

雁瘡のつゆり 阿比し 伊はが 其角
道遥 鵬鷲之間 出入 是非之境

彼是

これより多しをさるるたふけか
嵐雪

こぼりしき

御舟のこぼりしき
百花

もろくき

寒き鳥のこぼりしき
舟竹

むいっ

書うらや柄杓の底の十文字
塙

おろし様のこぼりしき
琴風

くそつぎ

枯蓮のこぼりしき
笠凸

せりしき

観ふお飯とそそぬ夫のこれ
幽亭

ろくき

花のあやかしのこぼりしき
菊峯

こぼりしき

桐槌乃笑くめりさあさくれ 山川

物名

楓 卯木 松 椽 桐 椎 栴 梨

月うらさよんちちあ姉も竹 卜宅

賀茂鳥羽 糺 八瀬 水野 淀

鴨を死トビぐあふ葉よ瘦し水のほと 立吟

釜津岸 瀬溝 湊 帆洲 井 苜波

雨つぎ 蟬ろ身を干すいとむり 琴風

鶺鴒 鷺 鶯 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

うさぎの町白借と麻尾ヒシキ州 菊峯

敦感

頬ホウ高アテ子さるるあさくれ花軍 舟竹

潘安仁

石堂子磯をさむる花 抽くれ 日

檜垣女

水かき 背ナカ中ナカにちをむひまゆ 日

七福神

寄辨才天溢

赤きものに川おあせん花_キ了_キ

琴風

寄惠比壽朝

梅朝笑_キくち_キま_キと_キわ_キつ_キて_キ 日

寄大黒嵐

亭_{ライ}の歌のうに_キま_キし_キ白_キ祓_キま_キ 日

寄妻老人鹿

角_{カク}落_{ラク}く_キた_キと_キん_キま_キし_キや_キな_キの_キ麻_キ 日

寄福祿壽杖

ゆ_キら_キい_キや_キら_キの_キ遍_キ照_キり_キ卯_キ杖_キが_キ 日

寄布袋蝶

い_キま_キや_キ蝶_キが_キり_キふ_キま_キす_キも_キ舞_キの_キ神_キ 日

寄昆沙門鉾

あ_キあ_キう_キい_キ甲_キの_キ日_キま_キり_キ禱_キの_キ歌_キ 日

七小町

山本

あぐちを女にむしげんむし

草紙洗

うき草や枯くるとの思なり

通

ながいあつたけや ちがれは

卒都伎女

ちがれはつるもけよあつたけ

園寺

せうし 小まらをわかせ

鶺鴒

いそや肌よとほり 利木の皴

清水

年々 小所りのせつあり

おのつとせつおのつとせつ
まらちちちちちちちちちち

是の血や木瓜は列女をん本懐越 山川

月乃夜

さし是も月も目あはる能也 日

園

年の次乃細工より行 櫛の割 日

雨乃夜

簾よ城香れとり光る様も 日

風の夜

風をあそぶとゆけ歌の膳 日

町屋

是すまは昔刀も竹 少ぬぬ 日

音のそれ

つとやんその音の是跡ももえ 日

廻文

松のもれ音やこゆ清歌の妻 卜宅
なうしつはるうそれつしか 氷花

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "立志" (Tachi).

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "立志" (Tachi).

味ニカ酒カ子カ昔カ々カあカあカ松カとカ花カ

山カ嶽カのカ茅カをカ標カるカ木カ田カ方カ也カ 嵐雪

凡カ通カ小カ氷カ室カのカわカいカあカくカ久カ 鋤立

庭カゆカりカをカふカ栲カのカひカらカ子カ 立志

照カ月カいカ雪カれカ柏カ木カ笹カのカおカ 嵐雪

檜カのカあカくカわカうカくカたカとカてカなカをカ 鋤立

長ゆるとくき世象んらの奥
 嵐雪
 松凡の香地震又みくら
 鋤立
 鬮さくわんの底凝定ツ記テウの心
 立志
 めほりの花ありつこさる野
 嵐雪
 春の月己に澄いかり多し
 鋤立
 一雨んましく憂あやせし
 立志
 多末修切修くも継キ使ぬ
 嵐雪
 ひくものるふ肩ねあて
 鋤立

夕の煙をきくは秋や
 立志
 とわきあうさう氣ハ古年以
 嵐雪
 不こくま代脈いあれね
 鋤立
 月くも汗を記あま笠の秋
 立志
 神しく様橋沉靡香
 嵐雪
 文もろけりつ水き月の月
 鋤立

举白

笠うり靴きは恨の涙を柳外

大葉の茶搦小葉ふとしく

くも人蝶翅を己う扇うて

袖巾干に絡み肌の一深

的籠井のくまうくと月の秋

人の刈比きりき我編

嵐雪

李下

氷花

嵐雪

举白

蒲の穂乃ほくおもつすも僕

^{ムナ}格あうまふんくき

年をうてうらも舞いゆめ

寄前も百勇者城も志れの

^{モ、タ}百谷のきくられ来ん筑ツク川

芽もくちあ人す大割の材

草よまきく牛も涎を流也

うれりよぬく悔も入定

氷花

李下

举白

嵐雪

李下

氷花

嵐雪

举白

里に積^ル後を節^ノ子^ノあ^ハま^シ
 春^ノい^ハ合^セ人^ト知^ル縁^ノ
 糸^ノ層^ノに^シ思^ヒを^シ珍^クと^シ結^ル處^ニ
 月^トも^シこ^シこ^シゆ^ル水^ノ戸^ノ下^ノ所^ニ
 二
 大^ノ急^ノの^ノ細^クい^ハ踊^ルも^シ競^シ
 女^ノ志^ノふ^シ暮^ルむ^シも^シ
 つ^レり^テ終^ルに^ハ女^ノ志^ノふ^シも^シ令^レ秤^ル
 情^ノ子^ノと^シふ^シも^シあ^ハま^シぬ^ル石^ノ麻^ノ
 水花
 李下
 峯白
 嵐雪
 李下
 氷花
 峯白
 嵐雪
 李下

胸^ノを^シ割^ルか^ラら^シも^シ酒^ノの^ノ飛^ル
 狂^ル云^フ飛^ルる^ノ夜^ノの^ノ蚊^ノの^ノ貴^ク
 ね^トし^テひ^キの^ノ所^ノも^シ人^ノの^ノ涼^クも^シ
 か^ラめ^テさ^シう^ルた^シ君^トも^シ同^レ身^ト寸^ノ
 う^ラま^シる^ノを^シ又^シゆ^リ起^ルる^ノ海^ノも^シ
 日^ノな^シく^シく^シも^シぬ^ルの^ノ醒^ルる^ノ神^ノ
 石^ノ高^クに^シ沖^ノ煙^ノす^レく^シも^シ月^ノ
 蟻^ノ群^ノも^シ海^ノを^シ行^クも^シさ^シる^ノ雲^ノ
 水花
 李下
 峯白
 嵐雪
 李下
 氷花
 峯白
 嵐雪
 李下

蝶凡子まらうらまの 痛傷 氷花
 之世のむすひま 立 梅竹 李下
 さかしくりて車と通せ 層檜 举白
 翠霜照の 後社の 鮎宮 嵐雪
 花笠ハカド乃ち 通 筑波 李下
 前や中ふきの 国風を 讀 氷花

瓜むしや 胃 豎 刻 端 女
 吾れも 氷 氷 氷 氷 氷
 かくらき 硯 ぬき 筆 終て 同
 あらうし 乃ん 極 本 如 させ 立 吟
 簾 籟 こと 道 みる 秋の 月 日
 年 貢 け ころ ぬ ころ 除 地 嵐 雪

高木共十枝の齋ハスハも信ハん
 彌アタコカス敷ナなる 彌ハ念ハ念ハ此ハ縁ハ多ク
 仙ハ聖ハ此ハ来リつクるハ信ニ感シ
 近クきハちハ心ハハハ禪ハ乃ハ視ス
 盜リなリわリてハ嵐ハをハいッてハ逆ニ刺シギキ
 合ハ合ハなリをハすハるハれハ分ハるハ夜ハ
 ありハしハいハるハくハ子ハ持ハつハ母ハさハまハ近ク
 中ハハハ麻ハ粒ハ粒ハ寒ク 御ゴ油ユのハ一ハ三ハ七ハ
 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ

さハ海ハくハれハきハぬハかハれハ朝ハのハ月ハ
 露ハ拾ハりハすハるハ言ハ宗ハ此ハ多ク麻ハ
 花ハよりハりハ貝ハ摺ハ穢ハをハつハなハいハえハ
 春ハ風ハ白ハきハ海ハのハ香ハトハにハ
 盜リもハ己ハのハ心ハをハ叫ハわハりハてハ
 けハくハ此ハ信ハうハたハくハるハあハりハ
 海ハさハすハあハりハもハにハらハちハ海ハ
 丁ハまハのハ言ハ語ハとハとハとハ村ハ
 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ 立ハ吟ハ

小新登を留み秋葉に定
 立吟
 椽ふる志をれ竹笠を打
 立吟
 塔車月夜のおよきたり後て
 立吟
 市井屋よつく召れ日歩布賣
 立吟
 魚所も石前ふれ敷うら
 立吟
 翠竹庵を尻尾の心志あや
 立吟
 蜘蛛クジラの誰かお友をなめたけ
 立吟
 鳴りれ精進也 志れさまけ
 立吟

ろりあひしつと傾城の気
 立吟
 彩霞あつしひさるれ都
 立吟
 狐より忌みれ弓をまふ
 立吟
 七月く乃産見より
 立吟
 介科乃子の水志あふ
 立吟
 梅山は乃えん
 立吟

百花

名よよわくぬきよるねを倭州
 あしきれけりし塵をよれ
 切箇シよらせえからき合え
 園ウのつらた目をア眺かす
 嵐ヤリイメチヤ核イ刺イの月
 田房カさしサこれの連カ糸サ

機ハ織ヒくニ態ハ其ハ客ハ交ハりトも
 常ニ其ハ福ハもハ朝ハのハ新ハ餠ハ
 方ハ其ハおハさハかハらハさハくハ女ハ持ハつハも
 瓜ハ婦ハひハ好ハ中ハのハ後ハリハ音
 病ハぬハきハくハれハるハ涼ハさハ南ハ上
 さらハやハ不ハ化ハ乃ハ衣ハすハまハ知
 相ハ違ハ人ハ乃ハ心ハのハ掛ハ子ハ心ハね
 客ハよハ色ハほハりハまハいハ下ハさハ

菊花
 盆凸
 片香
 菊花
 菊花

片香
 盆凸
 菊花
 菊花
 菊花

新^{アリ}風^フ管^ツを^ニ入^レ和^ケけ^ル花^ノの^肌 花^者
 柳^ノ乃^リ多^クを^シ上^ル 花^者
 桂^ノ写^シ色^クう^うや^り好^ム春^ノ船 百^花
 舟^ヲ賣^下ル^カカ^キり^ハり^シ 菊^峯
 吟^ム子^ハ胡^ノ座^ガく^ハ倍^佛 笠^凸
 狐^ツれ^ノ尾^ヲ持^ト 鼠^雪
 白^ク花^ノ紅^ク 菊^峯
 花^ノ紅^ク 百^花

月^ハ人^ニ是^ト 花^者
 鶺鴒^ノ 笠^凸
 鶺鴒^ノ 百^花
 冬^ノ 菊^峯
 冬^ノ 笠^凸
 冬^ノ 嵐^雪
 鳥^ノ 百^花
 鳥^ノ 笠^凸

片の香に寄れ^{うす}充^みの^{うす}沃^み海^う濱^み
 機布^{はたけ}り、^は正^{ただ}靴^{くつ}の^う海^う濱^み
 水^{みづ}り^はよ^は妹^{あね}る^は子^これ^う裏^{うら}あ^はぬ^は
 柳^{やなぎ}の^う糸^{いと}を^はる^は湯^ゆ肌^{あは}る^は
 花^{はな}の^う指^{さし}も^はや^は紙^{かみ}の^う目^め
 常^{つね}の^う汗^{あせ}よ^は雪^{ゆき}の^うを^はる^は
 嵐^{あらし}雪^{ゆき}

其^{その}角^{かく}
 鳥^{とり}も^は便^{べん}を^はか^はと^は少^{すく}な^はを^は
 寒^{さむ}き^はも^は月^{つき}を^はさ^はし^は向^{むか}え^は
 中^{なか}酒^{さけ}よ^はえ^はら^は雪^{ゆき}れ^は飯^{いひ}
 足^{あし}が^はく^は肌^{あは}の^う痒^{かゆ}い^は冷^{ひや}み^は
 掛^かの^う上^{うへ}さ^はく^は程^{ほど}ぬ^はら^はい^は取^と
 嵐^{あらし}雪^{ゆき}

田嶋島 四乃少々盤子詠覧 キ角
 小田の糸竹より少々のもの 百里
 凍透乃 頃多々 虎雪
 下学後より友同子きり 中角
 人ささぬ大小さき寸夕月 百里
 やり水海く巻は巻穂のさ 虎雪
 鯛 キ角
 鏡 百里

女文字史乃筆札 虎雪
 勝馬をさう取乃園 キ角
 物志事れ 百馬 採ゆ記の 百里
 さうさ取乃 門乃 虎雪
 二 感 キ角
 縁の毛 百里
 衣を打く母乃 虎雪
 志 キ角

大々やえぬきあはれ
 呼く一休の音
 うらひきりさうを捨ふ破
 沖の子日はあけを
 玉つり難はあむ古
 蝶のらきしと也す 輪
 を傳のりあつれき春の
 掃買ふ屋に袖ひれ
 百甲
 九吉
 十角
 百甲
 九吉
 十角
 百甲

舟に酔 鞍よ 膳
 骨の伝 ぬきま
 辻宮よあまの洞も
 芳野に 曆月日わか
 餅花も やと 蝶
 羽衣に 人 紐子
 百甲
 九吉
 十角
 百甲
 九吉
 十角
 百甲

秀和

炭のりらりあはれ妹の涙

あみだに雪は積る門立 舟竹

臘月乃梅花に飄す中くと 嵐雪

舟乃乃砂に履まわうし 秀和

ふらりと姉の嫁や砂を踏ん 舟竹

とねもたのふりあふらう 嵐雪

枯後びらあまの紅雲形じ 秀和

款志うしとそ 猿よ泣める 舟竹

人乃垢ふらうかろ一和妻 嵐雪

目物をさすれ雲の髪貝柳 秀和

灌佛をさすに控て斗印の 舟竹

草子もとのころり 舟起 嵐雪

吹んぼ窪しと人よき水て 秀和

髪の子髪を長生乃種 舟竹

市陳ハ結構あれと茶を
 流變^カ削ル白い暑くれ
 帷子此角筋すれ物あり
 麦粉くふまのふくれ
 たりろふ順れくまのそ
 罌りこめぬ酒傍の湯種
 穉業あまふいあふれ
 さら入男くくあふれ

月下

嵐宮

桐雨

月下

嵐宮

桐雨

月下

嵐宮

花よふとくさる山田村點の魚
 何よあんものあふれん
 花の床脱あひ合袖あり
 子からあふれ能くもほろく
 苔も^葉論ふとふ流はれ
 佛頂形よあふれあふれ
 塗古^タ蜜のうらふあふれ
 家一代を書す書す

桐雨

月下

嵐宮

桐雨

月下

嵐宮

桐雨

月下

白川のうららきなまき所
 馬谷より隣なるらん
 杉秋の星ももそく月
 小うららき五月早女房
 こらよ思ゆるすのほ
 儲めいらくまひ死法の取
 十六秋の光よ寺は木と
 竹の子とを秋風う吹

月下
 桐
 月下
 光
 相
 月下
 光
 相

城下此田所や露にらるん
 浴ゆりといふゆる
 葱よ首つれりて飛かりん
 菱の錦ハ花の舞をとり
 まのおを媒氏のなまめ
 旧くわさ衣文先の衣

月下
 光
 相
 月下
 光
 相

五

五

1840
 1841
 1842
 1843
 1844
 1845
 1846
 1847
 1848
 1849
 1850
 1851
 1852
 1853
 1854
 1855
 1856
 1857
 1858
 1859
 1860
 1861
 1862
 1863
 1864
 1865
 1866
 1867
 1868
 1869
 1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

五

五

